

道小大会運営研修会<反省・引継>の報告 …………… 紺野 研修部副部長

去る 10 月 7 日、「大会運営研修会」を開催し、胆振・苫小牧大会の反省と、次年度の大会への引継を行った。その中で話題になったことで、主に全体に関わる部分についてまとめたので報告する。

□事務局幹事と大会実行委員会との連携について

- ・分科会運営役員の役割について、第 1 回分科会運営者研修会から明確にし、業務の見通しをもてるようにしていく。今後も下記①②の部分を明確にして準備・運営に当たっていくようにする。役割によるグループ討議への参加の有無について確認をする。

①グループ構成を考える人、グループのメンバーを決める人、グループの司会・記録を決める人、それをお願いする人（司会者 2 名で話し合い、役割分担する。）

②座席表を作る人、名札を作る人、机の配置を考える人(会場責任者 I)

- ・記録者や会場責任者は、大会前日の第 3 回分科会運営者研修会で初めて分科会打合せに参加することになるので、担当が決まった時点で、事務局幹事から「分科会の運営の手引」を送付し業務内容等について伝え、事前の準備について連絡・確認をしていく。
- ・事務局幹事とメンバーとの電子メール等による連絡のやり取りを大切にし、分科会運営役員の情報共有を密に図ることが重要である。諸連絡のため現地記録者のアドレスも把握した方がよい。

□各地区との連携について

- ・各地区の発表については、経験の少ない校長先生もいることから、地区全体での研究の取組と分科会運営者研修会での検討や運営者全体での関わりを基に、内容の充実を図っていききたい。
- ・HP 閲覧の呼びかけを理事の先生、各地区の情報部の先生方にしていただ

いたおかげで、多くの参会者が資料等を持参してきた。今後も継続するとともに、グループの司会・記録者への依頼の際にも、同じ地区の参加者にHP閲覧を依頼していく。

□分科会の充実について

- ・「参画型」の分科会が定着してきており、アナライズカード、資料持参、グループ討議の観点の焦点化によって参会者の参画意識が高まった。キーワードやキーセンテンスをフリップに記入して貼り出すなど、討議の見える化も定着してきた。
- ・今年度同様、今後も分科会の基本的な流れは全分科会で統一した方向で進めていく。
- ・グループ討議に分科会運営役員（記録者、運営責任者、趣旨説明者等）が参加することで分科会参加者との一体感が生まれ、分科会充実の一助となる。今回、分科会によってばらつきがあったため次年度以降は統一していく。
- ・「討議・協議」の語義を鑑み語句を統一したい。全体協議、グループ討議としたい。

□全体会等について

- ・今回も開会式後、分科会運営役員が準備で分科会場へ移動することなく、全連小会長の当面の諸課題を全員が聴くことができた。分科会運営役員の途中退席がないことが望ましい。

□アンケートについて

- ・事後のアンケートについては、「十分」「概ね十分」「やや不十分」「不十分」の4段階にして参会者の研修に対する満足度を聞くようにした。回答数は251。今回はマークシート方式にして事後の作業効率化を期した。現地に機器があれば、次年度も継続していきたい。

□次年度以降の大会にむけて

- ・近い将来、分科会運営者研修会が 1 回少なくなり 2 回となる可能性が高い。分科会運営マニュアルを基本としつつ、「分科会の充実こそ、最大のおもてなし」という道小の基本姿勢を踏襲するため、これまで以上に幹事と発表者・運営責任者・現地司会者等との緊密な連携を要する。